

◇鈴木正洋君

○議長（澁谷俊二君） 次に、3番、鈴木正洋君の一般質問を許可いたします。

鈴木正洋君、登壇願います。

（3番 鈴木正洋君 登壇）

○3番（鈴木正洋君） 通告に基づき、一般質問をいたします。

質問事項は、樽みこしと舟っこ流しの今後のあり方についてです。

8月第1週の土・日、六郷まちなかエリアでは樽みこしと舟っこ流しという二つの祭りが行われます。ことしの樽みこしは4日（土曜日）の日中でした。夏の強い陽差しの下で行われました。松田町長がみこし担ぎに参加してくださったこともあり、ことしは例年よりも大変に盛り上がった祭りであったように思います。翌5日の日曜日の夜に予定されていた舟っこ流しの川入りですが、残念ながら豪雨により御伊勢堂川が増水したことにより中止となってしまいました。この土・日2日間にわたって行われていますこの樽みこしと舟っこ流し、この夏祭りの将来像について町当局のお考えをお伺いしたいと思います。

樽みこしは旧六郷町の商工会青年部が始めた祭りで、現在は観光協会が主催しています。既に30年を超える歴史があり、地域にも定着し、これからも力を入れて続けていくべき行事だと私は考えております。

誰でも参加できるのが、この祭りのよいところであり、今後ふえると予想される外国人旅行者の受け入れにも最適だと思います。東京の深川祭に次ぐ日本有数の水かけ祭りとして全国から認知される可能性もあると私は思います。美郷町が交流を進めようとしているタイや台湾にも大規模な水かけ祭りがあります。タイの正月に行われるソンクラーンは日本でも有名になってきております。

一方の舟っこ流しですが、こちらは享保年間に始まりました。その後戦時中の、申しわけありません。この通告書では「中断」と書いておりますけれども、この「中断」というのは若干正確性に欠く表現でありまして、戦時中に終わったというほうが正しい言い方かと思えます。昭和初期に細々と個人的に小規模的に続けられていた行事が戦争中に終わったということが文献に書かれてありました。中断というと一時的にお休みしたような印象を与えかねないので、そこの訂正をお願いいたします。

戦時中に終わりましたが、昭和43年に明治維新100年を記念して復活しました。ことしで50年となる歴史があり、運営には生涯学習課が当たられています。ですが、この祭りの存続について見た場合、黄色信号がともっているように私には感じられます。少子化の進行によって舟っこの数

が減り、昨年は14そうとなってしまうました。他町内との合同でなければ舟を出すことができない町内も出てきております。

また、樽みこしと同じ時期に開催されるため、両方の行事に参加する小学校6年生とその親には相当な負荷がかかっております。4日（土）には舟っこが自町内の練り回りすることになっておりますが、6年生は急いで樽みこし用のはんてんから舟っこ流し用のはんてんに着がえて、休む間もなく2つの祭りをはしごすることになります。

根源的な問いになりますけれども、異なる二つの祭りを同時期に行うということ自体が、そもそもおかしなことではないでしょうか。これから先の実施は、さらに難しくなるものと私は予想します。

現在、観光と物産にかかわる4組織を統合する作業が進められておりますけれども、それに伴い、樽みこしなどの観光行事を来年度以降どのようにするか検討がされていると思います。生涯学習課が担当する舟っこ流しも樽みこしと一体的に捉えて今後のあり方を考え直すべきではないでしょうか。行事に参加する者からすれば「水に親しむ夏祭り」というくくりで言いますと両者に大きな違いはありません。観光行事か伝統行事か、担当部署の違いなどは抜きにして今後の夏祭りのあり方として俎上に乗せるべきテーマだと思います。

樽みこしを美郷町の重点行事として広く海外にもアピールしていくことを考えた場合、必要となるヒト・モノ・カネの資源を集中的に投下することが大切だと思います。異論があることは承知の上で言いますけれども、舟っこ流しは廃止して、これまで使われてきた舟っこをみこしに改造し、樽みこしと一緒に子供たちが担いで練り歩くようにすることも一つの案かと私は思います。

深川祭には50基を超えるみこしが並びますが、美郷町も樽みこしと舟っこみこしを合わせれば20基を超えます。湧水の町・美郷町で行われる清水まつりに水に縁のあるみこしがずらりと並ぶ様子を見応えがあると思います。大小さまざまなサイズのみこしがそろえば小学生全員から担いでもらうことができます。地域の子供から大人まで、さらに地域を越えた人々とも水かけみこしならば心を一つにして楽しむことができます。

樽みこしと舟っこ流し、二つの夏祭りを一体的に捉えて、今後のあり方について再考する時期が来ているように思いますが、それについて町当局はどのようにお考えなのか。また、思い描いている今後の夏祭りの将来像がございましたら、あわせてお伺いしたいと思います。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。

町長、登壇願います。

(町長 松田知己君 登壇)

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

まずは樽みこしについてですが、清水に関心を持ち、そのありがたさを体で感じ、再確認することを目的に観光協会の主催により開催されていることは議員ご承知のとおりです。ことしで31回目を迎え、観客や担ぎ手も合わせますと約500名の参加があったと観光協会から伺っております。議員同様、私も今後も継続していただきたいと考えております。

次に、舟っこ流しについてですが、議員ご説明のとおり1700年代前半から始まったとの言い伝えがあり、舟っこを御伊勢堂川に浮かべて商売繁昌と子供の健康を祈るためのお祭りと言われております。一時実施されない時期もありましたが、昭和43年に明治維新100年の記念行事の一環として復活して以来、歴史・文化・伝統の継承の観点から町教育委員会の主催により開催しております。

その舟っこ流しを廃止した上で舟っこをみこしにしてはどうかとの議員ご提案ですが、商売繁昌や子供の健康を祈る象徴の舟っこ、清水に関心を持ち、ありがたさを再認識する象徴の樽みこしを同様にすることはそもそもの存在意義の違いが大きく、かなり困難なことと思います。

また、舟っこ流しは町教育委員会主催と言いましても舟っこの装飾や町内の練り回りなどは町内会が主体的に行っているわけですから、行政の一存で行事の本質を変えることは難しいと存じます。どうかご理解をお願いいたします。

なお、舟っこ流しのあり方を考え直す時期ではないかのご発言がありましたが、その点はおっしゃるとおりと存じます。議員ご指摘の子供たちの負荷の問題だけではなく、そもそも戦後まで地域行事として継続されてきた行事が明治維新100年を記念して行政主導で復活したとはいえ、いつまでも行政主導であることが、そもそもの行事目的を鑑みますとそぐわないのではないかとの見方もあるからです。

議員ご承知のとおり、実行委員会は関係町内会より選出された委員で構成されておりますので、今後、舟っこ流しのあり方については、実行委員会の皆様と町教育委員会でよく意見交換していくことが必要ではないかと私は考えております。

また、夏祭りの将来像についてですが、やはり人が集うとともに楽しさがそこにあることが夏祭りには求められるものと存じます。また、その楽しさの核心には何かしらのわくわく感が存在しなければならないと私は思いますので、そうしたわくわく感をさらに醸すためにどういう工夫や変化が必要なのか、また何が可能なのかについて、機会を捉えて、お祭りに関係する組織・団体などと広く意見交換してまいりたいと存じますので、ご理解をお願いいたします。以上です。

○議長（澁谷俊二君） 再質問ありますか。（「はい」の声あり）

3番、鈴木正洋君の再質問を許可いたします。

○3番（鈴木正洋君） 舟っこ流しの実行委員会で今後のあり方を再検討していくということでしたけれども、現在樽みこしが行われてます、そちらの団体との意見交換と、夏祭り全体での一体的な見直しという点については、取り組んでいただけるということでよろしいでしょうか。そこ、お願いいたします。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。町長、自席でお願いします。

○町長（松田知己君） 議員の再質問にお答えいたします。

今般の一般質問の趣旨は夏祭りとして捉えた樽みこし、それから舟っこ流しという概念と理解しております。そのため、答弁の一番最後のほうで夏祭りの将来像について、お祭りに関係する組織・団体と広く意見交換してまいりたいと述べましたが、その中には樽みこしであったりあるいはあまたの関係団体との意見交換という思いで話をさせていただきましたので、議員のご質問にあることを包含しているということでご理解をお願いいたします。

○議長（澁谷俊二君） 再々質問ありますか。（「はい」の声あり）

3番、鈴木正洋君の再々質問を許可いたします。

○3番（鈴木正洋君） 質問の私の質問の内容で樽みこし、舟っこ流しの廃止というところがちょっと強調されたような感じがありましたけれども、決して私は舟っこ流しを廃止してしまいなさいと、必ずしもそれにこだわっているわけではございません。ですが、同じ時期に行われる夏祭りということで一体的に捉えて運営していってほしいものだなということがあります。

例えば、樽みこしの練り歩きの前に舟っこを屋台に乗せて一緒に練り歩くような形でもできるのではないかなと。参加する住民にとって無理のない形で楽しい夏祭りが続けていければいいなと思います。

祭りは町の活力が結晶化したものであると私は思いますので、やっぱり祭りが盛大でなければ、その町は元気がないなと、魅力がないなと見られてしまうので、できるだけ大規模にやりたいものだなと。それから、町長も言われましたけれども、住民主体となってやるべきことが本来の姿であるなというところは私も同じ考えであります。

町長にお伺いしたいのは、私、樽みこしというのは非常に可能性のある行事だと思っております。誰にでも参加しやすいと、こういう敷居の低くさが一番の魅力ではないかなと思っております。町民だけでなく、ぜひとも町外、海外の人にも参加していただきたいものだな

と思いますが、松田町長を初めとしてタイや台湾などで交流される際に海外の人に向けてのトップセールスなどを、あとは海外への情報発信ですね。向こうから参加者を募ってブログ、SNSなどで情報発信をしてもらおうとか、そういう海外に向けたPRに取り組んでいただけないものかなと思っておりますが、松田町長、その点についてお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。町長、自席でお願いします。

○町長（松田知己君） ただいまの再々質問にお答えいたします。

ご質問の趣旨は海外でのPRに力を入れてくださいという趣旨と理解して話をさせてもらいますが、折に触れて美郷町の観光情報はタイにおいても発信しておりますし、先般伺った台湾においても発信しております。その中には必ず清水祭りの写真を載せてPRしておりますので、今後とも町内の大切な行事についての情報発信は怠らないように努めてまいりたいと思います。以上です。

○議長（澁谷俊二君） これで、3番、鈴木正洋君の一般質問を終わります。